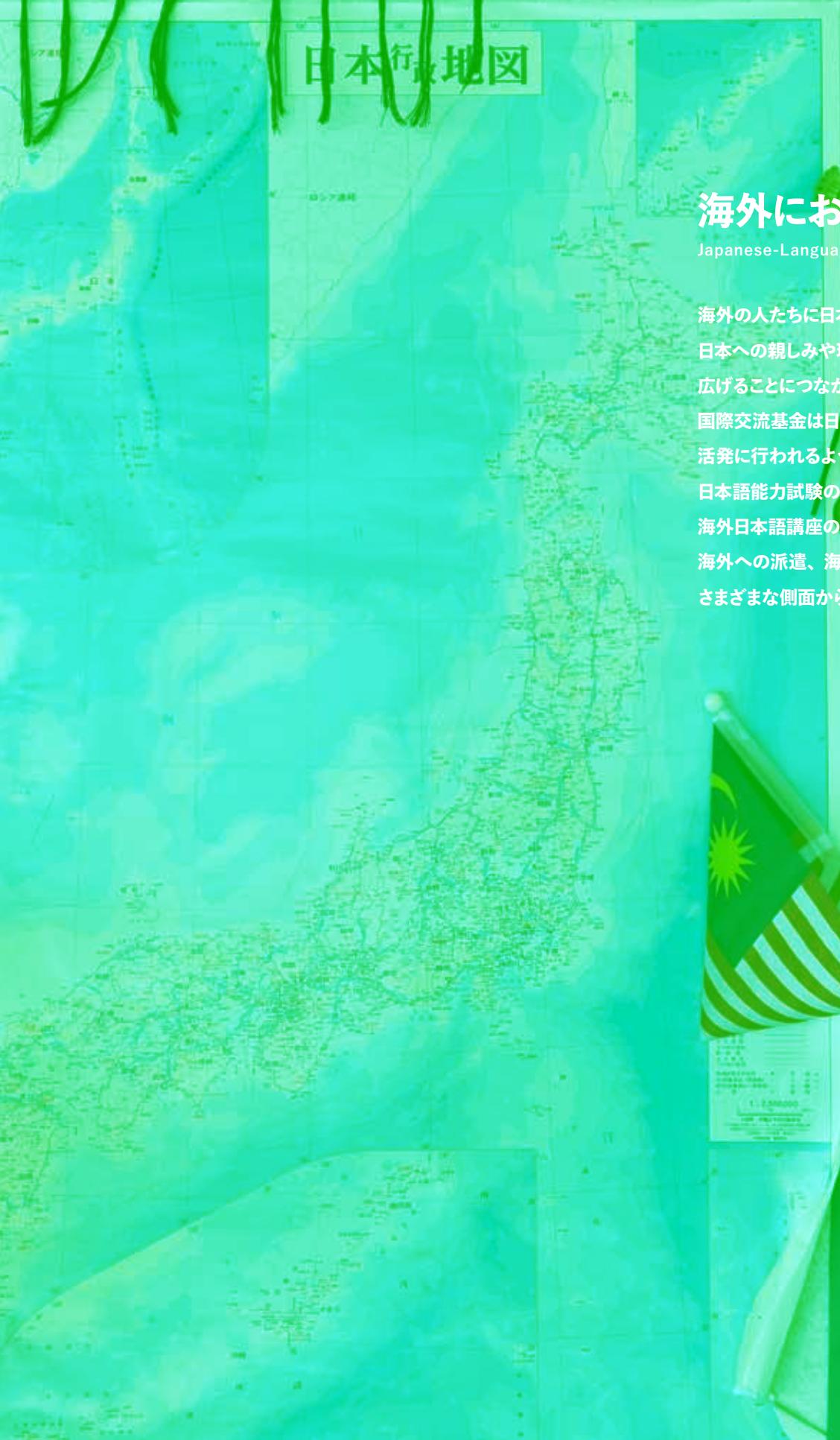




日本行政地図



海外における日本語教育

Japanese-Language Education Overseas

海外の人たちに日本語を知ってもらうことは、
日本への親しみや理解を世界に
広げることにつながります。

国際交流基金は日本語教育が世界で
活発に行われるよう、全世界規模での
日本語能力試験の実施や教材開発、
海外日本語講座の運営、日本語教育の専門家の
海外への派遣、海外で教える教師の訪日研修など、
さまざまな側面から日本語教育を支援しています。



海外における日本語教育

Japanese-Language Education Overseas

海外日本語教育の促進

国際交流基金が日本語教育事業を行うなかで、その使命の重要な部分をなすのは日本語教育の基礎基盤をつくることです。日本語教育のノウハウの共有、教育機関の調査や情報交流の場の提供、海外拠点等における日本語講座の実施など、日本語教育を世界に広げるためになくてはならない基盤をつくるために、継続的な活動を続けています。

教師・教育機関への支援

国際交流基金は、ひとりの日本語教師の指導が、たくさんの生徒に影響を与えることを重視し、海外の現場で日本語を教える教師の指導力向上を図るプログラムを展開しています。教師育成だけでなく、海外の日本語教育機関への助成や日本語教育のための催しに対する助成なども行っています。

学習者への支援

国際交流基金は、ふたつの側面から学習者を支援します。ひとつは教材の制作、将来の教師の養成等、日本語の学習環境の向上をはかる間接的支援。もうひとつは、海外の日本語学習者を招へいしての日本語・日本文化研修（専門的な日本語研修や学習奨励研修）といった直接的な支援です。海外の教育機関単独では、実施や継続が難しいタイプの学習者支援を継続して行っています。



海外日本語教育機関調査

世界中に広がる国際交流基金の拠点、在外公館等の協力を得て、全世界で日本語教育を行う機関の調査を3年毎に実施しています。これは日本語教育に関する世界で唯一の大規模な調査で、調査結果は新聞・雑誌等のメディアで数多く引用されます。2009年の海外日本語教育機関調査では、全世界に日本語学習者数は365万人、日本語教師数は4.9万人、日本語教育機関数は約1.5万機関といった結果が得られました。

日本語専門家の海外派遣／ 教育機関・プロジェクト支援

海外の教育機関に日本語教育の専門家や指導助手を派遣しています。日本語専門家の活躍の場は広く、世界各地で約120名が活躍しています。また、海外の非営利団体が運営する日本語講座や、海外で開催される日本語弁論大会、日本語教育に関する学術会議・ワークショップ、日本語教師研修会等への助成も行っています。

日本語能力試験

[試験センター]

日本語を母語としない人を対象に日本語能力を測定し、認定するための試験です。試験は世界各地および日本国内で1年に2回、一斉に実施されます。国内外合わせて62の国と地域で、約61万人が受験しました。小学生から社会人まで幅広い層の受験者によって、日本語の実力測定のため、就職や昇進のため、大学等への入学のためと、さまざまに活用されています。

JF日本語教育スタンダード開発 日本語教材開発

日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の仕方を考えるために独自のツールの開発を継続的に進めており、海外における日本語教育のさまざまな基盤整備の中心的役割を担っています。また、インターネットや映像を活用した教材開発・運営・普及を行っています。

JFにほんごネットワーク (さくらネットワーク)

日本語普及と教育の質の向上のため、世界各地の中核的な日本語教育機関や日本語教師会をつなぐネットワークです。国際交流基金の海外拠点と、国や地域全体の日本語教育に波及効果のある事業を実施する機関・団体が中核メンバーとなり、連携して世界各地の日本語教育をサポートしています。2011年度末に118機関(42カ国2地域)になりました。

海外日本語学習者への研修

[関西国際センター]

日本と各国間の良好な関係を築くために重要な任務にあたる諸外国の外交官、政府・公的機関の若手職員や、研究者、大学院生などを対象に日本語研修を行っています。また、諸外国での日本語教育を奨励するため、日本語を学習する各国の大学生、高校生の中から成績優秀者を日本に招く研修も実施しています。2011年度は、100カ国・地域から597名が参加しました。

海外日本語講座 (JF講座)

「JF日本語教育スタンダード」に準拠した新しいタイプの日本語講座を実施し、より学びやすく、教えやすい日本語の学習モデルを提示します。また言葉と文化の総合学習を重視し、日本語を使った相互理解を推進します。2011年度末において、世界24カ国のJF講座で約8千人が日本語を学んでいます。

海外日本語教師への研修

[日本語国際センター]

海外の外国人日本語教師のうち、各国・地域で指導的役割を果たしている人や、今後指導的立場にたつ人に対する高度な研修を行っています。また、教授経験の浅い教師対象に日本語力と日本語教授能力の向上を目指すなど、参加する教師の属性に応じて、さまざまな研修プログラムを実施しています。2011年度は、57カ国から434人の日本語教師が参加しました。



1



2



3



4



5



6



7

1. 大阪赤十字病院の日本赤十字社・災害拠点病院ロジスティクス・センターを訪れ、日本赤十字社の国際救援や国内救護活動について学ぶ関西国際センターの研修生／2. 日本語、日本語教授法および日本事情の授業を行う日本語国際センターでの教師研修。より豊かな日本語教育を目指したプログラムが実施されている／3. 書道の授業を受ける関西国際センターの研修生。同センターでは、日本語の研修に加え、書道、茶道、華道、浴衣の着付け、和太鼓、武道など、日本の文化・社会への理解を深めるための研修も行っている／4. 文化体験の授業で空手を学ぶ関西国際センターの研修生／5. ベラルーシのミンスク国立言語大学で日本語を学ぶ学生。成績優秀な日本語学生は日本で研修を受ける機会も／6. 2011年6月に桜美林大学で開催された日本語弁論大会（共催：財団法人国際教育振興会、国際交流基金）。中国出身の李明玉（前列左から4人目）が外務大臣賞を受賞／7. ロサンゼルス日本文化センターで2012年1月からスタートした日本語講座「JF Nihongo / Business Japanese」の受講生

日本語教育の専門家派遣と 海外の日本語教育ネットワークを拡充

■世界38カ国で122人の日本語教育の専門家が活躍

国際交流基金は、海外各国における日本語教育の定着と自立化の促進を目的に、各地に日本語教育の専門家を派遣しており、2011年度は38カ国に向けて、122人の日本語専門家を派遣しました。派遣された日本語専門家は、現地教師の育成、カリキュラム・教材作成や教師間ネットワーク構築への支援、教室での日本語教授など、それぞれが取り組むべきミッションのもとに活動を行っています。

たとえばベトナムでは、国際交流基金の日本語専門家が中等教育への日本語導入プロジェクトに全面的に協力しています。ベトナムでは2005年から日本語が中等教育の第一外国語として選択できるようになりましたが、国際交流基金は2003年から中等教育への日本語導入のための日本語専門家を派遣して、教師の研修セミナー、標準教科書の制作、授業現場へ赴いての指導等を行い、日本語教育プログラムの整備、教育水準の向上に取り組んできました。

2012年には、2005年に第一外国語として日本語の勉強を始めた第1期の生徒が高校を卒業し、社会に出ていきます。大学への進学、就職等、歩んでいく道はさまざまですが、将来彼らが日本語を使って日本人とコミュニケーションをとり、日本とベトナムの友好を未来へ繋ぐ架け橋となってくれることを期待しています。

■世界118機関に拡大したさくらネットワーク

JFにほんごネットワーク（通称：さくらネットワーク）は、世界各地の日本語普及と教育の質の向上のため、国際交流基金の海外拠点や、国際交流基金と協力・連携をとりながら活動する各地の中核的な日本語教育機関、日本語教師会を

つなぐネットワークです。2008年にネットワークの構築を開始し、2010年度末までに中核メンバーを100機関にするという目標を2010年度中に達成、2011年度末には42カ国2地域118機関にまで拡大しています。

こうしたネットワークを活かすため、「さくら中核事業」というプログラムを設け、海外拠点においてさまざまな日本語事業を実施しているほか、他の中核メンバーが実施するプログラムのうち、国や地域全体での日本語の普及・拡大・発展につながる波及効果の高い事業を支援しています。

また、国際交流基金の海外拠点のない国のためには、「日本語普及活動助成」というプログラムを用意しており、教材購入助成や講師の謝金助成など、各国・地域のニーズに対応したきめ細かな日本語教育支援を心がけています。

カンボジアの「さくら日本語・日本文化普及キャラバン」は2011年度の「さくら中核事業」の支援により実現した事業のひとつです。この事業は、王立プノンペン大学が現地の日本語学校の協力を得て企画したもので、日本語教師に加えて、歌や折り紙などの日本文化を伝える先生、日本語学習体験を伝える学生、そして日本語学習から繋がる将来像を伝える社会人がチームを組み、地方の高校を巡回して体験学習やセミナーを行いました。この事業により、日本語に触れる機会がめったにない地方の高校生に日本や日本語に興味を持つ機会を提供したことで、将来の日本語教育の芽が出る契機になりました。この芽を育て、やがては大きな森にしていくことが国際交流基金に課せられた使命です。



[上] タイで日本語教師を目指す教育実習生達
[左] ハンガリーで行われた中東欧日本語教師研修会

海外61の国と地域、198都市で 約49万人が日本語能力試験を受験

日本語能力試験 (Japanese-Language Proficiency Test 略称: JLPT) は日本語を母語としない人達の日本語能力を測定し、認定するための試験です。N1からN5までの5つのレベルに区分されており、受験者は自己の日本語能力に適したレベルを受験することができます。試験は、N1とN2は「言語知識(文字・語彙・文法)・読解」と「聴解」の2科目、N3～N5は「言語知識(文字・語彙)」、「言語知識(文法)・読解」、「聴解」の3科目で構成されています。

■海外で約49万人が受験

国際交流基金は世界各地の現地共催機関と協力して、2011年7月3日および12月4日に試験を実施しました。海外では2回の試験で合わせて約49万人が受験しました。台湾での試験は公益財団法人交流協会と共催しています(2011年度より、台湾での試験実施業務は国際交流基金が担当することになりました)。日本国内では約12万人が受験し、国内・海外を合わせ約61万人が受験しました。国内の試験は、共催者である公益財団法人日本国際教育支援協会が実施しています。

7月の第1回試験は、海外20の国と地域の96都市と日本で実施されました。国際交流基金が実施業務を担当した海外試験の応募者数は約25万人、受験者数は約21万人でした。

12月の第2回試験は、海外60の国と地域の196都市と日本で実施されました。国際交流基金が実施業務を担当した海外試験の応募者数は約32万人、受験者数は約28万人でした。

第1回試験では、江陵(韓国)、南通、西寧、福州(中国)が新規実施都市となり、第2回試験では、チリ、エクアドル、

オーストリアの3カ国が新規実施国、ジョホールバル(マレーシア)、モンテレイ(メキシコ)、エディンバラ(イギリス)が新規実施都市となりました。

■試験結果の活用とオンライン申し込み実施の拡大

日本語能力試験は、1984年の開始以来、25年以上の歴史がありますが、近年、受験者層の拡大および受験目的の多様化が見られるようになりました。それに伴い、試験を実施している多くの国で、試験の成績が大学入試や資格試験の要件、就職や昇進・昇格にあたっての判断基準など、さまざまな形で活用されるようになっていきます。

そのため、受験者が試験をより受験しやすくなるよう、オンライン申し込みの実施地拡大を進めています。2011年は、エディンバラ、バルセロナ、マドリッド(スペイン)で初めてオンラインによる申し込みを実施し、オンライン申し込みを実施している国は8つの国と地域になりました。また、2012年の試験からは、試験を実施するすべての国と地域でインターネットでの試験結果の閲覧が可能になる予定です。

■『日本語能力試験 公式問題集』を発行

2012年3月、『日本語能力試験公式問題集』を発行しました。本書は、2010年の改定後の日本語能力試験についての初めての公式問題集です。N1からN5まで各1冊ずつ、5冊に分かれており、各レベルとも試験1回分に相当する数の問題を掲載しています。試験の練習に使えるよう、問題用紙の表紙、解答用紙のサンプル、聴解試験用CD、聴解試験問題のスク립ト(音声文字にしたもの)も含まれています。また、2012年6月からは日本語能力試験公式ウェブサイトから無料でダウンロードが可能となります。



[上] 韓国・ソウルでの日本語能力試験のようす
[右] 新たに発行された『日本語能力試験 公式問題集』



海外の日本語教育の質を高めるための教師支援と 日本との架け橋となる日本語学習者を奨励する研修プログラム

■日本語教育を牽引する57カ国434名の教師が研修参加

国際交流基金の「海外における日本語教育」事業のなかのひとつの柱は、教師を支援するための事業です。2009年に国際交流基金が実施した「日本語教育機関調査」によると、海外での日本語教育上の問題点として、日本語教師の数の不足だけでなく、教師の日本語教授技術や日本語運用力の不足や教材不足が挙げられています。こうした問題に対応するため、国際交流基金の附属機関である日本語国際センター（埼玉県さいたま市）では、海外で活躍する日本語教師の訪日研修や、教材・カリキュラム開発などの教師支援活動を行っています。

日本語国際センターは、1989年に設立されて以来、8千人以上の日本語教師を迎えており、海外の日本語教師が研修を受ける機関として、高い評価を得てきました。2011年度は、最短2週間から最長1年間の期間を要すさまざまなタイプの19の研修を行い、のべ57カ国から434人の日本語教師が日本語国際センターの研修に参加しました。

中核的な教師研修事業としては、教授経験が6カ月以上5年未満の若手外国人日本語教師を対象とした海外日本語教師長期研修（6カ月）があります。2011年度は30カ国から57名が参加しました。研修参加者は、日本語や日本語教授法の授業だけでなく、書道、折り紙、生け花、着付け、茶道、日本舞踊等の文化体験プログラムや、日光や関西方面への研修旅行にも参加します。

研修参加者は日本滞在を活用し、日本語運用力の向上に努め、日本社会・日本文化への理解を深めるように精力的に活動していました。彼らの今後の活躍が、これからの日本語教育の発展につながっていくことを期待しています。

■日本語学習者と東日本大震災

日本語教育支援のもうひとつの柱は「日本語学習者への支援」です。多様化する日本語教育のニーズに対応するた

め、1997年に大阪府に設立され、2012年に設立15周年を迎えた関西国際センターでは、職業上、日本語能力を必要とする海外の専門家を対象とした「専門日本語研修」と、海外で日本語を学んでいる大学生・高校生等を対象とした「日本語学習者訪日研修」を実施しています。2011年度は、100の国と地域から597名が関西国際センターの研修に参加しました。

2011年度、「日本語学習者訪日研修」のひとつとして、新たに「米国JET記念高校生招へい」研修を開始しました。2011年3月11日の東日本大震災ではたくさんの犠牲者が出ましたが、そのなかには、日米の架け橋になろうとJETプログラムにより来日し、外国語指導助手として活躍中に、石巻市で亡くなられたテイラー・アンダーソンさん（アメリカ・バージニア州出身）と、陸前高田市で亡くなられたモンゴメリー・ディクソンさん（アメリカ・アラスカ州出身、2009年度国際交流基金全国JET日本語教授法研修修了者）のお二人がいました。この研修は、ふたりの遺志を継ぎ、将来日米の架け橋となることが期待される米国人高校生を対象に、日本語・日本文化への理解を深め、同世代の日本の高校生達と交流を深めることを目的に実施するものです。

2011年は、全米各地から寄せられた276人の応募者のなかから選抜された高校生32名を招へいし、7月19日～28日にかけて、関西国際センターを拠点に、大阪府立泉北高等学校訪問と同校生徒との交流、ホームステイ、JET外国語指導助手（ALT）や国際交流員（CIR）との交流、京都・神戸への研修旅行などを実施しました。また、文部科学省の協力を得て、参加者のうち19名が岩手県立不来方高等学校を訪問し、同校生徒と交流したほか、震災の犠牲者慰霊を目的に山中湖で行われた灯籠流しに向け、各々のメッセージを記した灯籠を作成するなど、日本語教育事業を通じて被災地や被災者と関わる取り組みも行っています。



[上] 日本語国際センターでの海外日本語教師短期研修（春期）で行われた茶道デモンストレーション
[右] 関西国際センターでの外交官・公務員日本語研修。在京大使館勤務はじめ、各国政府機関内で日本に関わる業務に就くことが期待されている若手職員が、日本語と日本事情を8カ月間にわたり学ぶ



独自教材の開発と日本語の教師、 学習者向けサイトの機能拡充と多言語化

■『まるごと 日本のことばと文化』試用版開発

「JF日本語教育スタンダード」(以下「JFスタンダード」)に準拠したコースブックとして『まるごと 日本のことばと文化』試用版を開発しました。「JFスタンダード」では、日本語を使って何がどのようにできるかという「課題遂行能力」と、異文化に触れて視野を広げ他者の文化を理解し尊重する「異文化理解能力」が必要であるとしています。この考えに基づき、日本語能力のとらえ方、レベル設定、目標設定と評価の方法など、カリキュラム設計の根幹を「JFスタンダード」に準拠し、教材化しました。2011年度は、「入門(A1)」に続き、「初級1(A2)」の開発、制作を行いました。また、学習者をサポートする学習用ウェブサイトの開発も進めました。

■「みんなの「Can-do」サイト」リニューアル公開

「JFスタンダード」では、熟達度のレベルをA1、A2、B1、B2、C1、C2の6段階とし、それぞれのレベルにおいて日本語で何がどれだけ「できる」かを、「～できる」という文(「Can-do」)を使って表しています。「みんなの「Can-do」サイト」は2010年3月に公開した、「Can-do」データベースのウェブサイトです。2011年度は、利用者からの意見をもとに、サイト機能の改善、追加などを行い、ユーザビリティの向上に努めました。

■WEB版「エリンが挑戦!にほんごできます。」が6言語に

WEB版「エリンが挑戦!にほんごできます。」は、2011年4月、それ以前の日英2カ国語版に加え、スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語版を公開し、全6言語版の多言語サイトとして運用を始めました。公開から2年目となる2011年度は、多言語化の拡充としてフランス語、インドネシア語版制作を進めるとともに、本サイトを活用してもらうための広報に力を入れました。その結果、2011年度末時点で、累計アクセス数が800万(ページビュー)を超え、日本語と日本文化に関心をもつ多くの人に活用されています。

■「アニメ・マンガの日本語」5カ国語版出そう

世界中に多くのファンをもつ日本のアニメやマンガは、海外の人が日本語を学び始める大きな動機のひとつになっています。「アニメ・マンガの日本語」は、アニメやマンガを楽しんでいる人達に日本語についてもさらに興味をもってもらうことを目的としたウェブサイトで、クイズやゲームを通して楽しく日本語が学べるよう工夫されています。

2011年度には、英語、スペイン語、韓国語、中国語に加え、新たにフランス語版を公開するとともに、すべての言語で13種類のコンテンツを利用できるようにしました。また、利用者の要望に応じてマンガのなかの台詞や擬声語・擬態語が音で聞ける機能を加えました。公開から約2年、5カ国語版のコンテンツ拡充ですべて完成し、グローバルトップページを設けました。サイトの利用者も順調に増え、2011年度の総アクセス(ページビュー)数は前年度比約14%増の約240万となりました。

■「NIHONGO eな」で日本語学習情報を継続的に発信

「NIHONGO eな」は、インターネット上にある多様な日本語学習に役立つサイト、リソースを学習者に向けて紹介することを目的としたウェブサイトです。誰でも無料で利用できる日本語学習サイトやツールの「できること」「操作方法」「使い方のアイデア」をわかりやすく紹介し、英語と日本語に加え、一部は中国語と韓国語でも提供しています。

2011年度は毎月3本の紹介記事を公開し続け、新しい情報を常に加えることで、変化していくインターネットの状況に対応できるように努めました。アクセス(ページビュー)数は前年度比約33%増の約102万となりました。

■「日本語でケアナビ」の拡充

看護・介護分野で働く人の日本語学習をサポートするウェブサイト「日本語でケアナビ」(英語およびインドネシア語で提供)では、利用者の要望を受けて、「診療科」「排泄介助」等のカテゴリー検索機能を加えて利便性の向上を図りました。



[上]「アニメ・マンガの日本語」のグローバルトップページ
[左]「みんなの「Can-do」サイト」のトップページ

海外の日本語教育機関調査結果発表と 戦略的な日本語講座の拡充

■海外日本語教育機関調査 報告書を出版

国際交流基金では、世界の日本語教育の現状を正確に把握し今後の日本語教育の施策に活用するため、3年ごとに全世界を対象とした「海外日本語教育機関調査」を行っています。全世界の在外公館や日本語専門家の協力を得て、その国と地域における日本語教育機関数や学習者数、教師数、学習目的、教育上の問題点等についてのアンケート調査を実施し、2009年時点では全世界に日本語学習者数は365万人、日本語教師数は4万9千人、日本語教育機関数は約1万5千機関といった結果が得られました。2011年度には、この調査結果を報告書にまとめ出版しました。地域ごと、教育段階ごとの傾向分析はもちろん、特に学習者数上位20カ国に関しては、過去の調査結果との比較も含む詳細な分析を新たに盛り込みました。世界の日本語教育の現状を記載したこの報告書は国内外の関係者から注目され、学会や論文等でしばしば引用されます。調査対象となった日本語教育機関の詳細な情報は国際交流基金ウェブ上でも検索・閲覧できるようになっています。

■海外日本語講座 (JF講座) の拡充

国際交流基金は、海外の日本語教育における新たなニーズに対応するため2011年度より、一般成人を対象とした日本語講座 (通称：JF講座) を拡充することにしました。2009年の「海外日本語教育機関調査」の結果、海外の日本語学習者数の伸びが注目されましたが、同時に学習目的の多様化も明らかとなりました。留学や就職という実利的な目的だけでなく、日本語そのものへの興味や、アニメ・マンガ等を通して日本文化に親しみを感じ日本語も勉強してみたいという学習者が増えています。

こうした現状を踏まえ、国際交流基金の日本語講座では、日本語の教え方、学び方、学習成果の評価の方法を考える

ための新たなツールである「JF日本語教育スタンダード」を取り入れた新たなカリキュラムを導入し、講座の充実とリニューアルに取り組んでいます。

JF講座では同スタンダードに準拠した日本語教材『まるごと 日本のことばと文化』などを用いて、今まで以上に日本文化理解に重点をおいた授業が行われています。2011年度には、国際交流基金海外拠点21カ所と、ウクライナ、カザフスタンの日本センターでそれぞれJF講座が開講され、のべ8,000人の学習者が受講しました。2012年度も4カ国で新しく講座を開設し、日本語と日本文化の総合的学習を推進していく予定です。

■経済連携協定に基づく看護師・介護福祉士候補者の日本語教育

国際交流基金は、インドネシア、フィリピンと日本との二国間経済連携協定 (EPA) により日本に受け入れるインドネシア人・フィリピン人看護師・介護福祉士候補者を対象として、来日前の現地日本語予備教育事業を実施しました。研修期間は、インドネシアでは6カ月間、フィリピンでは3カ月間でした。月曜日から金曜日までは基礎的な会話と読み書きを習得する日本語の授業を行い、土曜日は日本社会・日本人への理解を深め、日本の生活習慣などの基礎知識を習得する社会文化理解プログラムや日本の看護・介護事情についての講義を行いました。

候補者のほとんどは、この予備教育で日本語に初めて触れる人達です。たくさんの学習内容をこなさなければならない厳しい研修でしたが、日本で働くという目標をもった彼らの意気込みと学習意欲は大変高く、互いに励ましあいながら、日本語の授業のみならず、日本についてのポスター作成と発表、日本語の書き取りコンテスト、朗読発表会などの活動に元気に取り組んでいました。



[上] フィリピンで行われた看護師・介護福祉士候補者のための日本語教育
[左] 2012年2月にスペイン・マドリッドで実施された海外日本語講座のなかのマナー講座